



株式会社FUJIDAN



株式会社 FUJIDAN さんは、段ボールケース、特殊強化段ボールの製造・販売、印刷紙器・包装資材、包装機械の企画・販売等を手掛けています。

今回は、代表取締役社長本田展稔氏に脱炭素社会へ向けた取り組みについてお伺いしました。

①現在の取り組みについて教えてください。

当社は、脱炭素社会に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

まずは、太陽光発電についてですが、2010年に売電用として、旧本社工場に太陽光発電設備を設置し、2015年にも新工場建設用地において、太陽光発電設備を設置しました。さらに、2021年に、本社事務所屋上に自家消費型の太陽光発電設備を設置しています。

それから、2022年12月に「再エネ100宣言 RE Action（アールイーアクション）」に参画決定しました。具体的に、2050年までに再エネ100%達成を目標として取り組みを開始し、2023年2月9日より本社工場の屋根に設置した自家消費型太陽光発電（270KW）の本格稼働を開始しています。



※本社工場に設置した太陽光発電システム

本社工場の消費電力が約270KWなので、最

大発電ピーク時には100%太陽光発電システムで賄えるという工場になっています。発電効率予測をした結果、年間の二酸化炭素削減効果は66.9tとなっています。



※本社工場に設置した太陽光発電システムの発電量モニターを設置

また、前述の事務所棟にはBCP対策用として蓄電池を設置しているので、災害時には、この事務所棟は約3日間の電気を自家調達できるようになっています。当社はこの蓄電池を持つことで、災害時にも、工場を止めずに運転ができる環境を整えています。

2つめは、段ボールはエコの優等生とされています。というのも、段ボールは日本国内において、95%以上がリサイクルされている地球環境に優しいエコ素材となっているからです。工場内の生産工程の途中で段ボールの屑が出ますが、これも100%

製紙工場でリサイクルして、再度段ボールに生まれ変わっていますので、屑というものは出ないようにしています。



※生産過程で発生した切れ端を有効活用した特殊強化段ボール「エコライクパレット」

3つめは、営業車両にエコカーを導入しています。1番最初に電気自動車を導入したのが、今から約10年前になります。ただ、走行距離が短いため、営業車両としては使用できなかったのが、総務車両として使用していました。それから、昨年にも軽の電気自動車を導入し、現在総務車両として使用しています。また、7台ある営業車両にはできる限り燃費対策をした自動車を導入しています。

上記3つの他にも、紙媒体のデータや社屋全体のLED化、社内におけるSDGs

委員会の設置なども行っています。

②取り組みのきっかけについて教えてください。

太陽光発電設備を設置しようと考えたのは、「香川地方創生SDGs登録制度」に認証されたことや再生エネルギーの利活用、BCP対策、電気使用料金の高騰といったことが理由として挙げられます。

また、企業のイメージアップを図っていくということで、取引先の信用アップや人材の確保につながるのではないかと考えています。特に、学生さんはSDGsやカーボンニュートラルに意識を持っている企業を選択しようという傾向があると思います。ホームページにSDGsに関連するページを公開していますので、学生さんはよくご覧になっていると思います。

※香川地方創生SDGs登録制度・・・SDGsの達成に向けて積極的に取り組む企業や団体等を登録する制度

③取り組みの影響や効果などはどうでしたか。

太陽光発電設備の導入やLED化したことで、電気料金が大幅に減少しました。LED化したことの効果は大きく、照明器具の電気消費量は3分の1から4分の1くらいになりました。

「再エネ100宣言 RE Action」に参画決定し、カーボンニュートラル社会の実現に向けて取り組んでいくことを宣言したことは企業のイメージアップにも繋がったと思います。そして、SDGsや脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいる会社ということで、経済誌や全国版業界誌の取材を受

け、自社のPRができました。また、社員の間でも節電への意識が高まったと思います。

④今後の予定について教えてください。

本社工場の太陽光発電設備の拡充及び蓄電池の整備を進めていきたいと考えています。蓄電池は、太陽光発電設備と同時に導入しようと思っていましたが、蓄電池の性能やコストを考えると、今の時期がベストなタイミングではないと考え、先延ばしにしました。おそらく、蓄電池に対する世の中のニーズはこれから高まってくると思います。そうなってくると、性能も上がりコスト的にも安くなってくると思いますので、その時期になったら導入したいと考えています。また、太陽光発電をするにあたって、蓄電池と併用しないとあまり意味がないと考えています。現在は本社工場に太陽光発電設備（270KW）を設置していますが、まだ完成形だとは思っていません。蓄電池、V2Hを導入することによって、完成形に近づいていくのではないかと思います。

それから、当社は本社工場以外に3工場あります。この3工場についてもカーボンニュートラル工場にしていきたいと考えています

⑤これから、取り組みをしようと思っている事業者へのアドバイスなどがありますか。

やろうとすると財政的に結構大きな負担になります。これらをすることによって、大きく利益に結び付くわけでもありません。また、国や地方公共団体の助成制度はありますが、審査に時間がかかります。企業には決算期というものがあるため、導入する

タイミングを考えなければなりません。自社の当該年度の利益計画と節税効果等の全てのバランスを見ながら、導入していかざるを得ないので、結構なテクニックが必要となります。それから、脱炭素に絡む助成金は、国も地方公共団体も結構ありますので、情報収集はきちんとしておいた方が良いでしょうと思います。やはり、タイミングを誤ると、何百万・何千万の機会損失になってしまいますので、しっかりとアンテナを張っておくようにした方が良いでしょうと思います。



※ショールーム

Interview



本田 展稔（ほんだ のぶとし）さん

株式会社F U J I D A N

代表取締役社長

所在地

株式会社F U J I D A N

〒769-2705 東かがわ市白鳥 1820 番地